

## 理事会報告

日本菌学会 2019 年度第 3 回理事会 議事録

日時：2019 年 12 月 15 日（日）12：30～17：00

場所：東京理科大学 葛飾キャンパス

出席者（順不同，敬称略）：

会長 田中千尋 副会長 矢口貴志

理事：清水公德（庶務），伴さやか（庶務），糟谷大河（国内集会），谷口雅仁（国内集会），保坂健太郎（国際集会），中島千晴（国際集会 [AMC]），田中栄爾（編集委員長），本橋慶一（会計）

監事：大和政秀，稲葉重樹

オブザーバー：折原貴道（庶務）。

委任状：細矢剛（広報・企画・教育・普及），山田明義（日本菌学会会報編集責任者）

### 会議成立の確認

会長，副会長および理事 10 名の出席（委任状含む）により，理事会が成立したことを確認した。

### 【報告事項】

#### 1. 庶務関係（清水・伴理事）

##### (1) 会員動向：

2019 年 11 月現在，正会員 565 名（45 名減：国内 524，国外 41），学生会員 137 名，（5 名増：国内 121，国外 16），終身会員 114 名（全て国内），名誉会員 23 名（国内 20，国外 3），功労会員 2 名，賛助会員 14 社（1 社減）。会員総数は 855 名。

##### 補足事項

・会員数が昨年度に比べ大きく減った理由は，会費未納者を除名したため。

##### (2) 逝去会員：勝屋敬三氏（名誉会員；2019 年 7 月 11 日），衣川堅二郎氏（名誉会員；2019 年 7 月 5 日），下田智博氏（正会員；2019 年 11 月 11 日）

##### (3) メール会議の開催状況

第 1 回（2019 年 4 月 18～19 日）ニュースレター編集経費の前倒し執行について

第 2 回（2019 年 6 月 17～19 日）日本菌学会のサイト内の検索機能の更新について

第 3 回（2019 年 6 月 25～28 日）AMC 参加補助申請について

第 4 回（2019 年 8 月 1～4 日）AMC 参加補助申請について・その 2

第 5 回（2019 年 8 月 5～9 日）日本微生物生態学会と

共催行事「いきものミクロ探検隊」について

第 6 回（2019 年 10 月 15 日～18 日）AMC 参加助成について

第 7 回（2019 年 10 月 30 日～11 月 1 日）AMC 参加助成

について・その 2

#### (4) 各賞授賞候補者・候補論文の応募状況

・学会賞への応募が芳しくないため，奨励賞の年齢制限等の基準を今一度見直しても良いのではないかと思われる。

### 2. 国内集会関係（糟谷・谷口理事）

#### (1) 日本菌学会第 63 回大会（秋田）の開催報告：

主催：一般社団法人日本菌学会，一般社団法人日本菌学会 会長 山岡 裕一，一般社団法人日本菌学会 第 63 回大会会長 村口 元（秋田県立大学生物資源科学部）

共催：公立大学法人秋田県立大学（生物資源科学部）

会期：2019 年 5 月 24 日（金）～5 月 26 日（日）

会場：秋田県立大学生物資源科学部（秋田キャンパス）

懇親会会場：秋田ビューホテル（5 月 25 日（土）18:30～20:30）

大会参加人数：事前申込み 162 名，当日申込み 26 名（合計 188 名）

懇親会参加人数：事前申込み 126 名，当日申込み 14 名（合計 140 名）

##### 講演数：

受賞講演：3 題（細矢剛氏，遠藤直樹氏，折原貴道氏）

公開シンポジウム「菌類の進化と共生と成長のダイナミクス（動的な生き様）」：4 題（堀千明氏，松浦優氏，小林裕樹氏，竹下典男氏）

一般講演：94 題（口頭発表 55 題，ポスター発表 39 題）

中高生ポスター発表：3 題

##### 展示および交流企画：

菌学若手の会による「日本珍菌賞」についての展示  
アマチュア展示

「菌類に関する学生実習書等の展示」

企業展示

大会収入：1,883,000 円，同支出：1,883,000 円。

懇親会収入：1,062,000 円，同支出：1,062,000 円。

#### (2) 2019 年度日本菌学会菌類観察会（青森フォーレ）開催報告

会期：2019 年 9 月 6 日（金）～8 日（日）

会場：弘前パークホテル（講演会・説明会），弘前大学農学生命科学部（同定会）

共催：弘前大学農学生命科学部，鱒ヶ沢町，白神キノコの会，日本菌学会東北支部，青森県きのこ会，青森きのこ友の会，八戸きのこ友の会，三沢きのこ同好会，黒石きのこ研究会，五所川原山酔会，菌

## 類懇話会

実行委員長：佐野輝男氏（弘前大学農学生命科学部）

講演会：6日（金）14：00～16：00，弘前パークホテル  
ラ・メエラ

白神山地の微生物～細菌と酵母を中心に～（殿  
内暁夫氏）

青森県産ブナ林のきのこ（工藤伸一氏）

説明会：6日（金）16：00～18：00，弘前パークホテル  
ラ・メエラ

日程説明，観察会・同定に関する注意，観察地  
についての説明など

観察会：7日（土）8：00～19：00，白神の森遊山道及  
び弘前大学白神自然観察園，同定会場は弘前大  
学農学生命科学部（実験室）

観察地：A. 白神の森遊山道（鱒ヶ沢町），C. 弘前大学白  
神自然観察園（西目屋村）

参加者：89名。

観察会収入：704,000円，同支出：704,000円。

懇親会収入：444,000円，同支出：444,000円

### (3) 日本菌学会第64回大会（大阪大会）の進捗状況

- ・ 計画に沿って順調に進めており，日菌報第60巻2号  
に関連記事を掲載済み。
- ・ 2019年10月18日に大会HPを開設（[https://  
congress64.mycology-jp.org/](https://congress64.mycology-jp.org/)）した。2019年12月2日  
より参加申し込みを開始した（事前申込期限は2020  
年2月14日を予定）。講演要旨登録は2019年12月25  
日ごろ開始予定（登録期限は2020年3月13日を予定）。
- ・ 大阪大会ではこれまでのアマチュア展示に代わり，菌  
類の写真展を開催する方向で準備中。賞は現段階では  
考えていないが検討はしたい。また，振込口座名を「日  
本菌学会大会」に変更し，来年度以降も同じ口座を使  
えるようにした。大阪大会での自主企画シンポジウム  
は引き続き提案を募集中。

### (4) 2020年度日本菌学会菌類観察会（八王子フォーレ）の 進捗状況

開催案の策定を計画に沿って順調に進めており，  
ニュースレター2020年3月号に記事を掲載予定。

## 3. 国際集会関係（保坂理事）

### (1) アジア菌学会の運営

学生，若手研究者への参加助成を実施し，計13名の  
応募があった。うち諸事情による辞退者が2名生じた  
ため，計11名に各18,000円を助成することを決定し  
た。助成該当者へはAMC参加報告を菌学会ニュース  
レター2020年1月号および以降の号に分割して掲載  
予定。

### (2) 国際菌根性食用キノコ学会 IWEMM10（The 10th International Workshop on Edible Mycorrhizal Mushrooms）

の開催援助を行った。10月20日プレワークショップ  
（公開講演会），10月21日～25日に本会議：参加者は，  
海外19カ国から約70名，日本からは約40名だった。  
基調講演2題，一般口頭発表46題，ポスター発表34  
題が行われた。26日～29日にポストワークショップ：  
参加者は32名だった。

### (3) 日中韓台の合同シンポジウム

アジア菌学会開催期間中に意見交換を行い，開催ホス  
ト国となることの負担と，インタラクションの低調さ  
が挙げられた。対応策として，今後は日中韓の合同  
で，AMCの無い年に隔年でローカルなシンポジウム  
等を開催できないかとの意見が挙げられている。各国と  
も概ね前向きにとらえているようであった。なお，  
2020年度については日台の合同シンポジウムが台湾  
開催，2021年度は韓国で予定されているので，東アジ  
ア合同案については実現するのは早くても2022年度  
以降になる見込み。

### (4) 自然史学会連合主催国際シンポジウムの開催

2019年9月4日・5日に京都大学において，国際シン  
ポジウム「研究活動，資料収集，普及教育，アウトリー  
チを推進するツールとしての自然史博物館ネット  
ワーク：アジアの事例研究」（'Network of Natural  
History Museums' as a Tool for Promoting Research,  
Collection building, Education and Outreach: Case Studies  
from Asian Regions）が開催され，菌学会自然史学会連  
合連絡委員の保坂理事が企画運営に携わった。招待演  
者計4名による講演会では，パネルディスカッション  
の部に細矢理事がパネラーとして登壇した他，ポス  
ター発表の場も設けられ，計23題の発表があった。  
要旨集他は以下の自然史学会連合HPよりダウンロード可能：

[http://ujsnh.org/sympo/20190904\\_kyoto/index.html](http://ujsnh.org/sympo/20190904_kyoto/index.html)

## 4. 企画・広報・教育・普及関係（細矢理事：保坂理事が 代理報告）

- (1) 賛助会員メリットの一つとして，賛助会員のロゴを学  
会ホームページに提示した。賛助会員に希望調査を実  
施し，希望会員に対応。ロゴの表示スペースは統一し  
た。また，リンク先や会員名などを更新した。

### (2) 普及事業

教員向け：7月26日に国立科学博物館で実施された  
「教員のための博物館の日」に，日本菌学会として参加。  
詳細は報告記事（NL2019-4:1）。

大学生向け：8月3日に国立科学博物館自然教育園に  
て「大学生のための菌類学入門」実施。

子供向け：微生物生態学会との合同普及事業「いきも  
のマイクロ探検隊」12月8日，茨城県立自然博物館に  
て開催。詳細は，報告記事（NL2020-1）に掲載予定）

参照.

- (3) 菌学会ニューズレター (以下, NL) の発行状況  
2019年-3号 (7月号) 2019年7月1日発行, 20ページ  
巻頭言1, 紹介5 (うち学位論文4), 掲示板1, 学会記事2  
2019年-4号 (9月号) 2019年9月1日発行, 16ページ  
報告1, 紹介3 (うち学位論文2), 随想1, 学会記事2  
2020年-1号 (1月号) 2020年1月1日発行, 24ページ (見込み)  
報告6 (AMC), 紹介1 (うち学位論文1), 書評2, 掲示板1 (見込み)
- (4) 標本の輸入に関する農水省規制改定について  
植物標本を輸入する際に「Phytosanitary Certificate」が必須となった処置の撤回を求めて, 植物分類学会・分類学会連合とともに農水省に働きかけてきたが, 12月をもって元の適用に戻す (Phytosanitary Certificate 不要) 方向となり, パブリックコメントが行われた. パブコメは問題がなければ静観したほうがよいとのことなので, 特に対応はしなかった. 問題がなければ, 年内いっぱいをもって元の運用に戻る見込み.

## 5. 編集関係 (田中栄理事)

### (1) Mycoscience の発行状況

Volume 60, 2019 (契約頁数 (378~) 420 (~462)) 契約頁数の下限を下回った.

- 60 (1): 1-80 (pp. 80), Jan 2019 (論文6編, 短報4編)  
60 (2): 82-135 (pp. 54), Mar 2019 (論文7編, 短報1編)  
60 (3): 137-209 (pp. 73), May 2019 (論文8編, 短報4編)  
60 (4): 211-269 (pp. 59), Jul 2019 (論文4編, 短報5編)  
60 (5): 271-312 (pp. 42), Sep 2019 (論文3編, 短報5編)  
60 (6): 313-365 (pp. 53), Nov 2019 (論文3編, 短報6編)

Volume 61, 2020 (契約頁数 (378~) 420 (~462))

61 (1): 1-48 (pp. 48), Jan 2020 (論文6編, 短報1編)  
Accept 5篇 審査中&返信待 28編 2019.12.5 現在

### (2) 日本菌学会会報 (以下, 日菌報) の発行状況

第60巻, 2019年

- 60(1): 論文3編を掲載 (5月発行)  
60(2): 総説1編, 短報1編, 資料1編を掲載 (11月発行)

### (3) 投稿状況

- Mycoscience: 2019年の投稿数: 審査論文数 113報, 受理18報, 却下66報 (却下率58%), 審査中28報 (~

2019.12.5)

- 日菌報: 審査論文数9報, 受理6報, 却下1報 (却下率11%), 審査中2報, (~2019.12.5)
- (4) Mycoscience のインパクトファクター \* の推移: 1.380 (2018) <<< 1.229 (2017).  
\* (2018年のIF) = (2016・2017年掲載論文が2018年に引用されたのべ件数) / (2016・2017年に掲載された論文の総数)
- (5) 編集委員会の開催  
第1回 (2019年5月24日開催 (大会期間中))  
第2回 (2019年6月20日付メール会議) 日菌報投稿規定について  
第3回 (2019年8月5日付メール会議) 平塚賞および日本菌学会会報論文賞推薦論文の選考について
- (6) 投稿規定・細則の改定  
日菌報への英文資料の掲載等に関する投稿規定・細則について編集委員会メール会議を経て2019年8月9日付で改定した. 改定版は Web および日菌報 61巻2号へ掲載した.  
その他, Mycoscience の投稿規定の些細な点の修正を随時おこなった.
- (7) 2019年度平塚賞および日菌報の論文賞候補論文の推薦を行った.
- (8) オープンアクセス論文について, 本年度予算で Mycoscience にオープンアクセス論文を3編ほど掲載予定であるが, 現在の候補論文は1編のみ.
- (9) 編集経費について  
Mycoscience 編集補助謝金 (スタイル・チェッカー謝金): 1頁1000円.  
日菌報 英文校閲料: 3,756円×1回 (60(2)分)  
日菌報 J-STAGE 登載作業料: 318,000円 (50(1)-(2): 報分) を予定.  
(質疑応答, コメント)

Q. Mycoscience への投稿数が減ってきているのは, 競合する雑誌が増えたためか? A. 中国からの論文は確かに減ってきている.

- 日菌報はオープンアクセス (OA) なのかフリージャーナルなのか, 確認する必要がある. OA の場合, 著作権ならびにクリエイティブ・コモンズ (CC) ライセンスの範囲等を明示する必要がある. 編集委員会で原案を作っておいてほしい.

## 6. 会計関係 (本橋理事)

2019年9月30日付の中間決済が報告された. 概ね計画通り順調に執行がなされている. うち2,3の予算項目について内訳や事業状況が確認および議論された.

## 7. AMC 関係 (中島理事)

AMC 開催報告 大会は無事終了し、364名の参加があった。収支は赤字となるが、菌学会の当初予算(400万円)で吸収できる予定。

## 8. その他

### (1) Mycoscience ワーキンググループ (WG) からの報告 (田中会長)

Elsevier社から2020年1月以降の出版契約を更新しない意向を示されたため、Mycoscience WGに今後の方針の検討を依頼した。その結果、J-Stageのシステムを用い菌学会が出版母体となってオープンアクセス(OA)ジャーナルとして出版公開する方針が示された。

### (2) 環境微生物系コミッティーからの報告 (矢口副会長・糟谷理事)

2019年9月30日に開催され、菌学会代表として糟谷氏、矢口副会長が参加した。

本会議において、2017年に開催した微生物学系3学会合同大会の残金をもとに、土壤微生物学会、微生物生態学会で合同シンポジウムを行うことが提案された。菌学会大会における合同シンポジウムの実施についても、今後検討を進めてゆく。

(質疑応答)

Q. シンポジウムは5学会の会員は参加無料と提案されているが、参加の際、会員資格はどのように確認するのか。

A. 現状では自己申告を想定している。現状では菌学会から他学会のイベントに名簿を渡すには承認手続きが必要。次の土壤微生物学会でのシンポジウムで試行した結果をもとに検討したい。

## 【審議事項】

### 1. 庶務関係

#### (1) 日本菌学会受賞者選考規定の修正

一般社団法人日本菌学会受賞者および授賞論文選考規程中の表記の誤りが指摘された。項目番号の不一致を修正すべき事案であり、会則検討委員会に修正案の作成については諮ったところ、理事会による審議により判断する程度の案件であるとの回答を得た。これを受けて審議した結果、修正することが承認され、本事案についてメール総会に諮ることとした。

#### (2) 受賞候補者・候補論文応募書類の電子化

審議の結果、来年の応募書類を冊子媒体で送付するのではなく、電子媒体で取り扱えるよう応募要項を変更することとなった。

#### (3) 除名者の再入会について

現在、本件の対応についての規定が明文化されていないため、今後の方針や規定の是非について議論された。

2年分の会費滞納者は除名とし、滞納者に対して会費納入について積極的に連絡を取るものの、運用を厳密化する。再入会についてはその都度検討とする。

## 2. 国内集会関係

### (1) 2020年度日本菌学会菌類観察会(八王子フォーレ)開催案の策定

会期: 2020年9月27日(日)(日帰り)、首都大学東京(東京都立大学)南大沢キャンパス、共催は首都大学東京、菌類懇話会、神奈川キノコの会他、実行委員長: 丸山厚吉(首都大学東京)、観察地は同大学キャンパス内松木日向緑地・富士見台公園、八王子市長池公園、神奈川県立津久井湖城山公園。

### (2) 日本菌学会第65回大会の素案

会期: 2021年5月28日(金)~30日(日)、熊本県熊本市、大会事務局は宮崎和弘氏(森林総合研究所九州支所)。

### (3) 2021年度日本菌学会菌類観察会の素案

会期: 2021年10月15日(金)~17日(日)、秋田県仙北市。

(コメント)

- 2021年度菌類観察会の日程について、10月中旬開催だとAMCの日程と被る可能性があるため、動向について注視しておく必要がある。

## 3. 国際集会関係

- 今後の日中韓台合同の「東アジア合同菌学シンポジウム」の実現にむけて、関係各国の担当者と協議を進める。

- 日中韓台の合同シンポジウムについて、2020年10月頃は台湾、2021年は韓国で開催にむけて関係者との調整を進める。台湾開催に向け、招待演者以外の若手研究者(学生を含む)の渡航支援費用を計上したいと提案があった。

審議の結果、原案のとおり進めることが承認された。若手研究者(学生を含む)の渡航支援については、学生が参加できる形態で実施されることが開催国側から確認が取れてから、予算を計上する。

## 4. 企画・広報・教育・普及関係

### (1) NLのOA化の可否について

NLは「菌類に関する様々な話題の迅速な普及および共有」を役割として、年4回発行されており、学会内の情報共有や、関連の読み物として好評を博している。その一方で、

- 学会記事などの会員に向けての発信以外に、非会員も楽しめる内容も含んでいるが、会員限定で配布される紙媒体の出版物であるため、会員

以外へのアクセサビリティが低い。

- 2) SNS などの普及により、双方向の情報の発信や、情報の拡散・共有がリアルタイムで行われる文化が醸成されつつあり、NL の意義が低下しつつある。
- 3) 法人化されることによって、構成員に対する利益ばかりでなく、社会に対する公益に対する達成努力が求められる。

などの課題がある。そこで、これらの課題を解消するため、Web で配信し (OA 化)、アクセサビリティを向上させる。

この提案に対し、メリット・デメリットの論点を踏まえつつ、Mycoscience および日菌報と一緒に審議することとなった。

## (2) UNITE 国際ワークショップ開催について

“UNITE” は、最近注目されるようになってきた菌類のバーコードに関するイニシアチブ。会期は未定だが、全日程 5 日程度で、UNITE や GBIF の利用およびデータ出版をしたい大学院生・研究者向けに、UNITE の運営に関わる専門家による研修プログラムが提案されている。これについて、菌学会が主催の一員になるかどうか提案された。

審議の結果、菌学会としては助成金申請などに有利に働くなどのメリットはあるが、原案ではワークショップの趣旨も菌学会員のニーズと合致するのには微妙である。以上の理由から、開催時期に猶予があるのであれば、開催案を詰めてもらい、再提出後、継続審議する。

## (3) 自然史学会連合主催講演会への広報ブース設置について

表記講演会 (2020 年 12 月に北九州市立いのちのたび博物館で開催予定) において、日本菌学会の体験ブース (菌の標本を観察するなど) を出展する。菌学会から若干名の体験ブース運営補助ボランティアを募集したいと提案があり、概ね原案通り承認された。ボランティアの交通費の支払いについて、今後担当と調整してゆくことになった。

## 5. AMC 関係

AMC 支出の明細についての説明があり、支出の項目および内訳に問題が無いか、審議がなされた。収支の赤字分は日本菌学会の国際情報発信 (AMC) の予算 (400 万円を計上) から補填されることで、議案が承認された。

## 6. その他 : Mycoscience, NL のオープンアクセス (OA) 化について

Elsevier との出版契約は 2021 年 1 月に完全に解消されるため、速やかに次期出版体制と移行体制を整える必要があることが説明された。6 月の菌学会総会時を目標に

2021 年度以降の運用形態について公表できるように拡大ワーキンググループで準備することが承認された。

(質疑応答)

- J-Stage で Mycoscience を OA ジャーナルとすることについての諸問題について討議した。APC (Article Processing Charge) の設定について説明があり、また、APC を出版活動に還元する流れを作っていくことは今後学会の持続的運営の観点からもメリットになることなどが指摘された。本審議では暫定的に APC 5 万円、非会員と会員差額 ± 1 万円として徴収額の検討を始め、編集委員長と会計担当で総会決議できるような案を作成することが決定された。
- OA 化した場合の各論文の著作権は学会が持つものとして、著者は学会に著作権を移譲する方向で出版体制を整備することが確認された。また、CC ライセンスの範疇についてもあわせて決定してゆく予定。
- 移行期間中については、Web of Science 等での信頼性にも影響を及ぼす可能性があるため、出版物の発行は欠号しないよう計画的に進めなければならない。
- 学会運営の主軸の一つである Mycoscience が完全 OA となる場合、会員が享受するメリットをどのように明示化するかは大きな課題。OA 化の影響として、会員数の減少は避けられないのではないか。それによる学会収入減を踏まえた運営が今後必要になること等の議論があり、理事会として問題点を共有した。
- 移行プロセス中の Elsevier からの出版、あるいは J-Stage から出版される論文の確保についての対策に関する討議、印刷版廃止により Mycoscience 誌内容の会員への発信力が弱まるのではないかと指摘、その対応として Table of contents や key words など NL に掲載する試みなどが討議された。

NL の OA 化は審議の結果、承認された。ただし、今後の検討事項としては以下の通り。

- 完全 OA 化とする場合、事務的な記事 (理事会報告等) については、ML で会員に配信するなど、別途会員に発信する方法を検討してはどうか。
- NL はアマチュア会員の情報源としても有用な出版物であり、内容の充実は図っていく必要がある。アマチュアの会員ニーズを考慮すると、印刷物を維持する選択肢も残した方が良いのではないと思われる。なお、日菌報および NL とも、現状、投稿は会員のみならずされており、会員が享受するメリットは現在でもある。

以上。